# 腐敗した保守派の選挙運動
## "ある選挙長のメモ"

荒尾市におけるこんどの地方選挙は、市民がかつて一度も経験しなかったみにくいものだつた。わたくしたちはこのような腐敗しきつた選挙を、キビしく批判する勢力をつちかうためいろいろとこんどの選挙でおきた事実をつきとめ、もう一度、ジックリ見つめる必要がある。ここに記した"ある選挙長のメモ"は一市議候補の行動範囲内の問題だが、こんどの問題として公開することにした。

**四月二十七日**

＝不法ポスター全市に数万枚＝

遅いこみに入つたので、午前六時三十分から、出勤する組合員にさいごの挨拶をするため、深瀬三叉路に宣伝車を向ける。

そのとき、はじめて全市に「市長には地元の人を」というポスターが、数万枚はられた事実を知つた。

ただちに倉掛の駐在所に連絡、駐在巡査にきてもらつて事実の確認をしてもらつた。巡査は「ただちに本署に連絡して手配する」とのことで引きあげていつた。

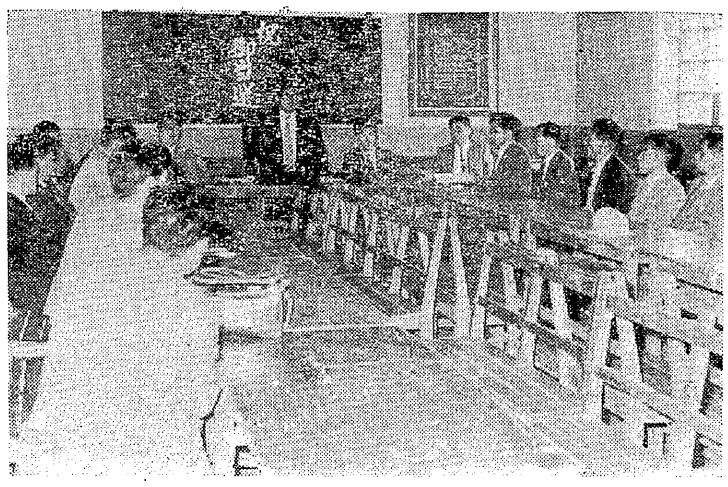
このポスターは翌二十八日にも、さらに二十九日にもはりつづけられたが、一人も警察の網にはかからなかつたらしい。

**舞い狂う怪文ビラ**

四月二十八日

＝「声明書」と称する選挙運動目的の不法ビラ全市に撒かる＝

各新聞の取り扱い店に米村茂名簿の声明書と称する、選挙運動目的の不法ビラの折りこみいらいが、各店は同業者間できめられている「政治活動とみられるあつたが、



組合本部で初会議をひらいた三鉱労組新政治局員

印刷物の折りこみ辞退」で、これを断つたとの情報をつかんだ。

ところが翌日、農村で遊説中、都市部農村部に全面的に運動員や隣組班長を通じ、配布されていることがわかつた。

とくに一部農村では、この印刷物のほかに「荒尾市大島一三・自由民主党荒尾支部、荒尾市長候補吉開幹士選挙事務所、電話本部二〇八・四三五」という名刺が添付されていた。

さらにこのビラはこの日駅前の道路上でも、白昼公然と通行人に配られている。旅行者の一人は「これはまつたくひどい。悪政府状態だ」となげいていた。

このことについて警察は「証拠となる物件を捜している」との回答だつた。

私たちは、このようにつぎつぎとうたれてくる謀略にたいして、あと数時間という運動期間を利用して、合法的な方法でどう打ち返していくかということについて、なすスベがなかつたというのが事実だつた。

**狙われた社宅**

四月二十九日夜

＝組織の分断は守れたか？＝

地方選挙は投票の前夜から投票開始のときまでに転つたという話をよくきく。荒尾では、それを防止する意味から選挙の最終段階には、各部落ごとに青年団や消防団が、強力な警戒態勢に入るならわしになつている。

集団社宅でも、いつごろからか四囲の情勢に準じた行為がおこなわれていたが、ことしはごく少人数でおこなう方針だつた。ところが午後十時ごろ「本日午後六時から望仙闘支店で自民党の最終段階の打ちあわせ会議があたれ、そのなかで本夜十二時までに、組織票を半分ヒツクリ返すことが協議され、その会合に組織人がこの地区からだけで、三名加わつていた」との情報が入つてきた。

地区選対ではただちに上部機関に連絡するとともに、傘下の各分会、隣接選対本部に連絡した。

その連絡のためA選対に向う連絡バイクが、A町入口の道路にさしかかつたとき、道路際の麦畑のところに四、五名の怪しい人影がライトのさきに浮かびでた。

それをやり越してA本部についたとき、逆の方向から看板をはずしたワクだけの選挙自動車が数人を乗せて通過した。先刻の怪しい集団に何やらを指示して立ち去つていつた。

こうなると、必然的に警戒体制を強化せざるをえなくなつた。そうするうちに「各方面から二十名入ろうとした」「社宅の裏側に自転車で数人きていた」などなどの情報が入つてきた。

地区選対本部は、この集団化した彼らの意図が何であるかの判断に苦しんだ。というのは、入ろうとしたメンバーが一見"〇〇組"といわれるグレン隊風"の風体だつたからでもあつたが……。

これを三十日午前三時ごろ、野原地区に集つているとの情報をさいごに、投票開始時刻を迎えることができた。

**適正な機関の設置を**

選挙前

＝爆弾攻撃は目にあまる＝

選挙後、外来から入つた情報では、社宅侵入ができなかつた彼らは、前期まで与党だつた無所属候補の地盤にナダレこみ、軒なみ爆弾攻撃がおこなわれ、関川流域の無所属候補は一夜にして苦戦になり、農協の推した一名は落選したまた、瓶屋地区に拠点をおいたB候補も落選のウキ目をみた。

選挙運動目的の不法ビラの折りこみいらいが、各店は同業者間できめられている「政治活動とみられるあつたが、

**選挙を省みて**

二十三日の県知事・県議、三十日の市長・市議とひとまず終止符がうたれ、ここに私たちがながく希望した革新県政ならびに市政が誕生したわけです。

いままで張りつめていた心が自然と一時にほぐれた感じですしかし油断は禁物ですこれからさきこそ、苦難の道だと思うと手ばなしで喜んでばかりもおられません。

二十五万票という多数の差でみごと知事選を勝ちえたことはやはり汚職がいちばん恐しいということです。この公金の不正流用には、さすがの土屋さんもカブトをぬがざるをえなかつたようです。

そのために、いろいろな手で巻返しにきております。鶴崎知事の得票数はすべて無効票だと選管委に申立てております。

こんな流言に、私たちは負けてはなりません。せつかくきづいた革新県政を無為に倒してよいものでしようか。こんどこそ革新政治の意義を十分に発揮させなければなりません。

こんどの選挙で、私たちは労働者であることをよく認識し、自覚しました。あらゆる分野から、目に見えぬ野望がワナが光つております。私たちの団結で信頼されるガラス張りの政治をうちたて、あとおしし、協力しようではありませんか。そして革新知事だからこそ、こんな立派な政治ができたのだと、県民の方がたに、そしてまた常日ごろ「アカだアカだ」と嫌う人びとにもよくわかるように手本をしめしていただきたいものです市政にしても同じです。この大牟田で革新都市を発展させ、やはり革新市長じゃないと駄目だと二十万市民の一人ひとりが理解できるような明るい市政をきづきあげねばなりません。

そして市から県へ、県から政府へと革新政治のつながりを大きくひろめ、働くもの同志がお互いに喜ばれる、そして安心して働ける街にしてゆきましようまだ参議院の選挙がひかえています。この選挙にも私たちの良識ある判断で清き一票を投じ、国を愛し日本を戦争から守るために最後までがんばりましよう

七夕　**永田とみ子**

これについて、外来の通勤者は「あれは自分の金ではないですよ自分の金だつたら、あんなに馬鹿な使い方はしないはずです」また「金は市長運動ですが、各地区の自民党市議候補の運動員がまけば金も抱きあわせで一挙両得ということでしよう」と話していた。

このような秩序も何もない選挙に対抗するために、切実に感じたことは、革新陣営の中心がボヤけていたことである。

通信、連絡を完全ににぎり、各地区の情勢を把握し、企画し適切な指示をする機関がなければ全体を総攻撃態勢にまでもつていくことはできない。

金機能を能動的に動かすことのできなかつたところに、チグハグさを感じた。

## 和の日記【5】

五月一日　金曜　晴

目を覚ますと快い太陽の光線が窓越しに反射している。

もうこんなに日が高い。何時だろうと目をこすりながら時計を見ると、八時にちかい。

大きく背伸びをして起きた。母ばあちゃんの集合場所に出かけて行つたのだろう。卓上に朝食の用意がされていた。

白ブラウスに黒スカート、何んと良い服装であろう。

すがすがしくて美しい。

そつと鏡の前に立つてみた。一人でに笑いがおこる。どこからともなく"炭掘る仲間"のメロディーが耳をかすめる。

年に一度の労働者の祭典で心がおどる。会場につくあいだ、昨年はじめてメーデーに参加して感激し、ファイトを燃したときのことを思い出す。

大会々場である笹林公園に一歩足を踏みいれると、何万人という働く仲間が歓喜に満ちた表情で語りあつている。一年中仕事におわれ、話すことあたまつていたのであろう。笑い声、ささやき声、すべて楽びである。

日はさんさんと頭上に輝いている。しかし私には一寸した不安があつた。それは昨日の選挙の結果である。働く者の代表が無事であつてほしいと心で願つた。

式典は盛大におこなわれた。メッセージも未来のための促進が豊富のようであつた。

大会終了と数十羽のハトがはなされた。澄みきつた青空を飛び去つていつた。このハトも、今日を祝つてくれていると思いじつと去るのを見送つた。

市中パレードの足は悠々とアスファルトの道を力強く踏みすすんだ。

五月三日　日曜　晴

新しい議員さんもきまり、数日前までザワメキ立つていた選挙の騒音もピタリと止み、今日はのびのびとした気持で日曜を迎えた。

福岡県議会、大牟田・荒尾市議会とともに、革新議員の大量進出で年来の希望がかなえられ、何となく心がはずんできた。

こんどは参議院選挙だ。これにもし革新が負けたらどうなるだろう。おそらく、岸内閣は、まつていましたとばかり、早速憲法改正で、再軍備をするのであろう。戦争、まつたく考えただけでも身の毛のよだつようだ。

今日、このようにのんびりした気持で日曜を迎えられるのも平和のおかげである。しみじみと、今日の憲法記念日に、私たちが世界に誇る平和憲法の意味を、もう一度考えてみた。

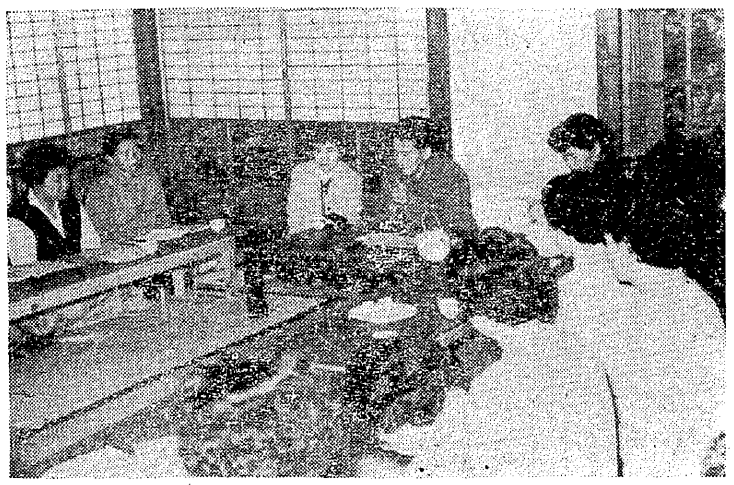
毎日の生活に勤強どころでなく、右往左往したあの戦争。人と人とが殺し合う、何というむごたらしいことだろう。それにいまはミサイル、長距離弾道弾とボタン一つで戦争が終るというし、莫大な人間が一瞬のうちに死んでしまう戦争である。その死んでいく人間の後では、戦争のために儲ける一部の人間が、ほくそえんでいる。何と馬鹿らしいことだろう。

何としても参議院選では革新が勝つてもらいたいものだと、五月の青空をボンヤリ眺めながら一人りきみ返つていた。

## 戦争と参議選

本部書記　小柳満子

## ひどい警察の介入
### 主婦と生活社のオルグを囲んで懇談



主婦と生活社労組オルグを囲んでの懇談会 ―勝立クラブで―

「主婦と生活」「週刊女性」「トルー・ストリー」を出版している主婦と生活社では、副委員長の配置転換問題をきつかけに、権利闘争に突入。出版界はじまつていらいといわれるストライキを二カ月ちかくつづけ、会社の弾圧、警察の介入をはねのけて、団結をくずさず闘つている。闘いの概要については、すでに"みいけ"第五七二号で報じたとおり同労組では闘いの長期化にともない、不売運動をすすめるためにオルグを派遣して闘争支援を訴えているが、四月二十四日から九州にオルグ、三池には七日来山、九日までの三日間各支部の主婦たちと懇談会をひらいて闘いの支援を訴えた。

オルグとして来山したのは男女二名。また、宮瀬支部から三日間六支部の主婦会の人たちと話あつて闘争が長期化し熾烈になつたことを、とくに、警察の介入が激しくなつたことや、逆に共闘のもりあがりを示したことなど、闘争経過が話され、懇談をおこなつた。

**結束固い組合員**

問　組合員の脱落者はありますか

答　結成時は九十五名でしたが、十名が落伍し現在八十五名です

問　第二組合があるのですか。

答　第二組合はありませんが、非組合員が四十名ばかりいます。

問　非組合員とは……。

答　社長がワンマンですし、縁故関係で入社した人が多く、この人たちが組合に入らず非組合員となつています。

問　組合の結成はいつですか。

答　昨年の一月です。それまで気運はあつたがどうしてもできず半年がかりで秘密会議をひらきながらやつとできた。社長は以前健保組合ができたとき、組合と名をきいただけで貧血をおこしたほどで、組合のクの字をきいても目の色を変えていたほどです。だから、第一回団交のときは貧血をおこして倒れた話もあるのです。

問　組合員の団結はどうですか。

答　現在の人はとても結束しており、女が大半ですが、すでに二カ月も闘つており、地評などでは都内一強い組合になつたとおどろいています。

問　共闘関係はどうですか。

答　地評が積極的に五円カンパをすすめてくれ、それを闘争資金にあてています。生活資金には七割もらつていますが、どうしても闘争資金が不足しがちですので、みなさまがたのご支援をお願いします。

**ひどい政治献金**

問　警察の介入はどうですか。

答　まつたくヒドいもので、女子の多いところへ非組合員と一緒にきて暴力をふるつたことが、都内でも社会問題になつてきています。

問　会社のやり方はどうですか。

答　社長が自民党で通産政務次官です。雑誌も九十五％は売れる好成績ですが、利潤の多くはほとんど自民党に献金しています通産政務次官になるために二千万円もの献金をしています。組合員にはそのため配分がすくなく、出版界では最低で、しかも最高の能率をあげているのです

問　支援情況については……。

答　スト前はなかつたが、スト後各単産が強力に支援しています、それに各婦人雑誌の編集者が共闘会議をつくり、執筆者へ執筆拒否を呼びかけています。

問　ストで雑誌の質は低下していますか。

答　当然です。いままで洋裁、料理など私たちが自信をつけてやれるのを満載していましたが、いまは、先生の検査をうけていないので自信がなく、評判がとても悪いようです。私たちとしては、一日も早く正常になつて、ためになる雑誌にもどすことが念願です。

この権利闘争に勝てば、いままでの暗い職場が明るくなり、こんどの経済闘争も有利になるのです。だから私たちは二年でも三年でもがんばりぬいて闘うと決意し、結束をかためています

問　不買運動はどうですか。

答　不買運動が浸透してきたから会社も動揺してきたようです。銀行からも融資をストップされているし、敵の闘争資金としては売上金だけです。とくに九州は東京につぐ売上げをやつていますので、このさい、読者にはとくに迷惑をかけますが、闘争の終了までぜひ、私達を支援するために不買運動をすすめてご支援くださるようお願いします